

平成27年度第2回奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会議事概要

開催日時 平成27年8月11日（火）13:30～15:40

開催場所 奈良県庁 第一会議室（大）

出席者

（委員）安田委員長、今中委員、狭間委員、堀委員、矢島委員

（法人）山下理事、清水部長、表野部長、その他関係課職員

（事務局）中川県知事公室審議官、野村病院マネジメント課長、木嶋課長補佐、

その他病院マネジメント課職員

議 題

- （1）平成26年度に係る業務実績に関する評価結果について
- （2）平成26年度財務諸表の承認にかかる意見について
- （3）その他

公開・非公開の別

公開（傍聴者 0人、報道関係者 0人）

議事内容

- （1）平成26年度に係る業務実績に関する評価結果について
・事務局より「資料1」の説明

[安田委員長]

注目される取組は委員評価4.0以上、課題は2.4以下と一律で決めている。ただし、あくまで目安であるので、4.0以上でも採り上げない項目、4.0未満でも採り上げる項目等のご議論をいただきたい。

まず、地域貢献4ページから11ページについて、ご意見は。

[安田委員長]

地域貢献〈診療関連〉のスキルラボ（年度連番31）について、この項目では、地域の医療従事者に対する項目であるが、実績として、スキルラボは学内での利用となっている。一方で、地域貢献〈教育関連〉のスキルラボ（年度連番13）の項目は、附属病院の職員に対する項目であるので、年度連番31を採り上げず、年度連番13を採り上げるのはどうか。

[堀委員]

文章は、年度連番13にあった変更されるのか。

[安田委員長]

そうである。

他に意見がないので、年度連番 13 は注目される取組に採択し、年度連番 31 は不採択でよろしいか。

(各委員了承)

[堀委員]

地域貢献〈教育関連〉の年度連番 1 と 2 について、内容が重なっているように思うが、両方とも採り上げることでよいのか。

[安田委員長]

私も年度連番 1 は内容的に採り上げる必要は無いように思うが、年度計画の項目に沿って採り上げているので、記載方法としては問題ない。

[事務局]

参考資料 3 の業務実績報告書の 1 ページ目をご覧いただきたい。年度連番 1 は県立医大医師派遣センターが県内の病院に説明したといった主旨であり、年度連番 2 は南和地域公立病院等、南奈良総合医療センターに医師を派遣するために調整を行ったといった主旨である。ゆえに、目的が違うため、評価書(案)では分けて記述している。

[堀委員]

年度連番 1 を消してしまうと、県全体に説明した趣旨が消えてしまうということか。

[事務局]

そうである。

[堀委員]

ならば、年度連番 1、年度連番 2 ともに注目される取組に採択される必要がある。

(各委員了承)

[今中委員]

評価書(案)の 19 ページのまちづくりについて、かなり多角的な取組をされようということで、新しいまちづくりと医療、キャンパス整備とを統合されて計画を立てていこうといったことだと理解している。その中で、様々な取組が進んでいると思われるが、今回低い委員評価になっているのは、26 年度に策定するといった計画が策定されなかったことが要因だと思われる。評価書(案)に記述内容を読んでも何が課題なのか、どうして採り上げられているのか分からない。このような重要な取組が行われているにもかかわらず、印象が悪いように思われる。予定通りに計画が進捗しなかった経緯が読み取れない。

現在、この計画はどのような状況にあるか伺いたい。順調であるのか順調でないのか。進捗が遅れているのが仕方ないと言えるのか伺いたい。

[事務局]

現在、新キャンパス移転に向けての教育、研究部門の整備、医大敷地内での附属病院の再整備、また、その周辺も含めて大きな計画になっている。それに併せて橿原市もまちづくりをしたいと考えておられる。それら大きな計画の中で、26年度計画では、ハード整備の前段にあたるソフト部分である将来像について、教育、研究、診療と毎月1回、「医大の将来像策定会議」において知事と学長とでご議論いただいている。理念的な将来像については、27年度中にまとめたいと考えている。次年度以降にハード整備に係る基本整備について考えようとしている。事務局としては、評価書（案）にはそのような記述になったというのが現状である。委員会の中でご議論いただいた上で、修正等していただければと思う。

[法人]

第1回で示していただいた評価書（案）よりは記述も短くしていただき読みやすくなっている。しかしながら、前回の（案）の記述している内容の方が、経過がわかるような内容となっているため、そちらの方が今中委員ご指摘に沿った記述になると考える。

[堀委員]

私個人としても、法人ご指摘の記述に賛成である。年度計画策定の後に、知事と議論していく中で、抜本的な理念の構築から始めないといけないということになった、ということである。評価委員会としての評価は点数が出ており決まっているので、それを見て、甘くするとか辛くするというのは良くない考える。評価としては、悪い委員評価点数であるので、課題として挙げ、いきさつは悪い方向に向かっているのではないということを記述の形で残すことが大切だと考える。経過を記述し、より良いものを作るためにやむを得ず遅れているといったことを説明するということが落としどころとすべきではないか。

(各委員了承)

[安田委員長]

記述に関しては、経過がわかるように再度書き直しし、評価点数は低いので課題として採択。また、まちづくりの項目が丁度議論となったので、本項目についての年度評価は、Ⅲのおおむね順調に進んでいるとしてよろしいか。

(各委員了承)

[堀委員]

採り上げる項目の順については、入れ替えてもいいのではないか。

[安田委員長]

重要な取組については、始めに並び替えるといったことでもいいのではないかとと思う。この項目は是非前にもってくるべきだ、といった項目はあるか。中期計画の順に

従って記述している。
(各委員、意見なし)

[今中委員]

年度連番 9 の認定看護師について、1 名有資格者が出、3 名が研修修了し来年度の受験を予定というのは、他の病院に比べたら非常に多いが、大学病院であることを考えると特段採り上げるべき項目か疑問である。

[堀委員]

私も疑問に思い、前回の会議で質問させていただいた。すると、想定していた人数より多くの合格者がでたので、法人の自己評価を S にした、といった回答であったが、やはり、特段採り上げる項目ではないように考える。

[法人]

目標が、平成 25 年度から 2 名増やすといった目標であったものが、目標に比べて 5 名も上回っていることを考えると評価していただいてもおかしくないような実績である。

[今中委員]

設定した目標より大きく上回っているといった理由で採り上げていると理解した。注目される取組から取り下げるとは提案しない。

[矢島委員]

評価書（案）の 6 ページにおける、医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数は前年度より減っているが、これくらいの減であれば、平成 30 年度の目標は達成可能か。

[法人]

長期的に就職者数を見ていくと、不思議なことに必ず隔年現象が起きており、増えて、減っての繰り返しの傾向がある。増減を繰り返しながら緩やかに伸びているので、第 2 期中期期間が終わる年度には目標は達成できると確信している。

[安田委員長]

現行の評価書はあくまで案であり、評価も案であるので、ここで決したい。

[矢島委員]

平成 30 年度に達成可能ならば、課題として特筆すべきものでないと思う。
(各委員了承)

[事務局]

評価書（案）の 10 ページ目における、重篤な患者の高度救命救急センターの受入率に関して、e-MATCH における数値を記述しているが、システム入力等における種々の課題があり、数値が伸びていない現状にある。そのため、附属病院の現状として、

救急患者の受入状況も併記している。その点についても議論いただきたい。

[堀委員]

数値は多い方がいいと考えるので、このように併記することは非常にいいことである。

[狭間委員]

2つを併記することに異論はないが、指標は e-MATCH に基づく率を対象としているのか。

[安田委員長]

そうである。救急患者の指標の中で重篤な患者だけデータとして取り出せるのか。

[堀委員]

難しいのではないか。指標を作った時点で想定できないことも多々起こりうるので、アスタリスクを付すなりして、ただし書きや説明をつけて載せることが現実的であると考え。

[法人]

実際、今年度9月から ER 体制を試行し、11月から本格稼働しようとしているので、また、27年度実績から違った指標も出てくる。非常に難しい問題である。

[堀委員]

評価委員会は、年度当初に法人が示された指標に対して実績がどうなのかを評価するのが役割である。すなわち、評価してほしい項目をだしていただいてもいいと考える。当項目は公表されているものであるもので、変更はできないが、別の指標として、アスタリスクを付すなどして説明すればいいと思う。

[安田委員長]

次年度以降どのようにするかは別に考えるとして、本年度の評価はどうするか。

[法人]

他の指標では、件数を載せていないので、この指標でも件数は載せずに、両指標を併記する、といったところでいかがか。

[事務局]

件数を入れているのは、評価委員会用で、評価委員の先生方にご議論いただきやすいように入れている。そこを含めてご議論いただければと考える。

[矢島委員]

件数を入れない形で、パーセントのみを記述すればいいと考える。救急患者受入状況が重篤でない指標であるなら、その旨を記述した上で載せると良いと考える。

[安田委員長]

e-MATCH での受入率と指標を比べて評定することになるが、どうか。

[堀委員]

評価委員会としては、2つの指標に基づいて、評定を下したものとすればいいと考

える。

(各委員了承)

[安田委員長]

これまでのところの年度評価は、地域貢献〈教育関連〉がⅣ、地域貢献〈研究関連〉がⅣ、地域貢献〈診療関連〉がⅣでよろしいか。

(各委員了承)

[安田委員長]

次に、教育、研究、診療の 12 ページから 18 ページについて、ご意見は。

[事務局]

評価書(案)の 13 ページの、「医師・看護師の理想増を理解し、医師看護師になる強い自覚を持った学生の割合」について、括弧内の数値については、自覚を持っている学生も含めた率となっている。前回の評価委員会で提出した評価書(案)から付け加えた点であるので、ご議論いただきたい。

[今中委員]

医学部であるのに、強い自覚を持った学生が低いように思われる。

[法人]

確かに法人としても、問題意識を持っている点である。しかし、医学科であると 6 年生になるにつれ、看護学科であると 4 年生になるにつれて強い自覚を持った学生の率が目に見えて現れている。

[堀委員]

アンケート調査は、その仕方や方法によって随分現状とは違ったものとなる。そのため、現状を正確に反映しているとは考えにくい。私個人としては、総合的に判断できるように、数値はできる限り多くを記載すべきだと考えている。

[矢島委員]

自覚を持っている学生も含めて記載することに賛成であるが、括弧内の数値も含めて、H25 年度に比べて H26 年度結果が悪くなっているのが気になる点である。

[安田委員長]

では、括弧内の記載を残す方向でよろしいか。

また、現在、カリキュラムの変更等、大きな取組を行っている最中であるので、少し状況を見守ってもいい点であるように思うがいかがか。

(各委員了承)

[矢島委員]

同ページのカリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合に

ついて、医学科のカリキュラムに対する割合が少々高いように感じたが、先程あったように、カリキュラムを変更している途中であるので、評定を変更することは提案しない。

[今中委員]

評価書(案)の18ページについて、女性医師数について人数が少ないように思う。また、その次の看護師の離職率についてであるが、指標に比べれば実績値は悪いように見受けられるが、大学病院の看護師として優秀な人材を地域の病院等に輩出しているのならよいと思うが。

[法人]

女性医師数についての項目は、アスタリスクで補足があるように、教員における女性医師に限った数であり、非常勤の医師は含んでいない。また、看護師の離職率の内訳であるが、結婚、出産等におけるライフイベントで退職される割合が多いのが現状である。

[矢島委員]

年度連番43・44・45に関して、ワークライフバランスの項目が並んでいるが、これらの項目が法人運営の項目にのみ採り上げられているのは、ワークライフバランスの項目は、法人運営に一番関わりが深いと考えられるからと考えて良いか。

[安田委員長]

そうである。他の項目に関しても、一番関連の深いと考えられる項目でのみ採り上げるといった整理を行っている。

[安田委員長]

これまでのところの年度評価は、教育がⅣ、研究がⅣ、診療がⅣでよろしいか。
(各委員了承)

[安田委員長]

次に、まちづくり、法人運営の19ページから23ページについて、ご意見は。

[安田委員長]

評価書(案)年度連番62の看護学科10周年の記念式典に関して、記念式典の開催と記念誌の発行であるので、特段、注目される取組にとりあげる必要はないと考えるが、いかがか。

[堀委員]

私もそこについては同様に考えていたところである。特段採り上げる必要はないと考える。

[安田委員長]

では、本項目に関して、注目される取組に不採択でよろしいか。
(各委員了承)

[安田委員長]

これまでのところの年度評価は、先ほど了承を得たまちづくりはⅢ、法人運営がⅣ
でよろしいか。
(各委員了承)

[安田委員長]

では、最後に評価書(案)の2ページ、3ページについて何かご意見は。

[矢島委員]

ここに採り上げられている項目は、各項目からピックアップされたものか。

[安田委員長]

そうである。各項目において、委員評価で最高点の項目、もしくは特段採り上げる
必要があると判断したものを選択している。また、まちづくりにおいて、年度計画よ
り遅れていることについては、経緯が分かるように記述することで整理した。

[堀委員]

まちづくりにおける記述については、非常に経緯が分かりやすくまとめていただい
たと考えている。

全体評価として、注目される取組として採り上げた項目に関しては、県民の方や一
般の方が見たときに、分かりやすいような文章にすべきではないか。細かい数字や専
門的な言葉はできるだけ除外した文章にすべき。その上で、項目別評価で詳細な表現
で、具体的に記述したものをみていただくべきである。

[安田委員長]

確かに、そのような整理のほうが分かりやすく良いと思う。各項目の文言につい
ては、数字等の細かい情報は外した形で整理し、後日、委員先生方にみていただくこ
とでよいか。
(各委員了承)

[安田委員長]

では、全体評価と項目別評価については、事務局との最終調整は私にお任せいただ
き、最終案を作成後各委員へ事務局等でお送りし、ご確認いただくということによ
ろしいか。
(各委員了承)

(2) 平成26年度財務諸表について

- ・事務局より「資料2」の説明

[堀委員]

評価委員会の役割として、財務諸表の中身一つ一つの項目に関してあれこれ言う立場にあるのか。どのような立場なのか。

[事務局]

地方独立行政法人法の規程によると、知事が法人の財務諸表を承認する時は、評価委員会の意見を聴かねばならないとあるため、処理の適切さや事務手続の適正さも含めて、知事に対して、財務諸表について評価委員会として意見を述べる立場にある。

[安田委員長]

評価委員会として知事に対して、ご意見がなければ、参考資料8のとおり提出してよろしいか。

(各委員了承)

→特段意見なし。財務諸表の承認については、評価委員会として「承認することが適当である」との結論に至った。

